

# 「耐震性能分科会」の審議内容を公開し、 まずは建替えの是非を市民に問うべき



4月5日、第5回「本庁舎等整備の在り方に関する有識者会議」が開かれました  
すべてが「建替えありき」の議論

第5回有識者会議では、本庁舎の「規模」、「立地・配置の要素」、「熊本市の財政状況」等について審議されました。

市が整理した内容に沿って意見が述べられましたが、終始建替えを前提としたものでした。

## 【市が整理した内容】

- (1) 防災の観点からの立地・配置  
災害リスクを踏まえた立地・構造、災害対応を踏まえた機能とする
- (2) 財政への影響  
中期財政見通しの前提条件、庁舎整備を踏まえた財政の健全性
- (3) 資産マネジメントの観点  
行政手続きのオンライン化、テレワーク等、社会・行政の変化を踏まえた庁舎規模
- (4) まちづくりの観点  
行政施設全体の立地、市民の利便性・都市機能への影響を踏まえる

## 「民間活力」という前に、公の施設として果たす役割こそ重要

審議では、資産マネジメントの観点で、「建設は民間、PFI等を活用する、稼ぐ場所・・・」との意見もあり、民間主導・PFI活用を前提に、効率的活用とい

うことで、利益を上げる施設が想定されていました。

市庁舎が「公の施設・市民サービスの拠点」として果たす役割の議論こそ必要です。

## 非公開の「耐震性能分科会」結論に市民は納得していない

「庁舎整備に関する有識者会議」が、市民の意向が反映されないまま、建替えを前提にして検討がすすめられていることが大きな問題です。

そもそも非公開の「耐震性能分科会」が出した「『耐震性能

が不足している』という耐震性能評価は正しい」という結論に市民は納得していません。秘密になっている耐震性能分科会の審議内容を公開し、市民への説明責任を果たし、市民的論議を尽くすべきです。

【控室から】  
ハンドマイクの縁  
上野 みえこ

「おめでとうございませう」というお手紙をいただきました。20数年来のお付き合いの方です。熊本地震や新型コロナなど、さまざまな出来事が続き、すっかりご無沙汰になっていたので、久しぶりのお手紙を、本当にうれしく思いました。この間いろいろとご苦労があったようで、近況が縷々書かれ、加えて「貴女の街頭演説を家の前で聞いて、それからの永いお付き合いになりました。」と、出会った時のことが書かれてありました。初めて選挙に出るとなったときから、来る日も来る日もハンドマイクで街頭に立ち、訴えて来ました。その頃に出会った方のお一人です。「誰もおらんところで演説しても・・・」と言われることも多々ありましたが、必ずどこかに聞いている人がいます。そして、たくさんのお会いがありました。共産党が考えていること、やっていること、これからやっていきたいこと、それを誰にでも届けることができるのが街頭宣伝です。人と人をつなぐ大切な活動として、これからも欠かさず続けていきたいと思っております。




**日本共産党**  
**熊本市議会だより**

熊本市中央区手取本町1-1  
発行：日本共産党熊本市議

NO. 1319  
2023年4月23日号  
電話 328-2656  
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp  
HP：共産党 熊本市議団

 **検索**

# 監視井戸から有機フッ素化合物を検出 地下水保全の観点で、徹底した調査を



## PFOS・PFOA(有機フッ素化合物)を初めて検出

PFOS 及び PFOA は有機フッ素化合物で、水や油をはじく性質や熱や薬品に強い性質を持つため、フライパンや包装の表面処理剤などの身近な製品や半導体製造、消火剤等に広く用いられてきました。

しかし、分解されにくく、環境中に長期間残留する上に生体内に蓄積しやすいという性質があり、近年になって有害性

や免疫阻害性が問題視されるようになりました。

2020 年 5 月に、PFOS 及び PFOA が水質汚濁防止法の要監視項目に追加されました。

この規定に基づき、熊本市は 2022 年に初めて監視井戸における PFOS 及び PFOA の調査を行い、2 カ所の井戸から PFOS 及び PFOA の指針値(暫定)超過が確認されました。

## 徹底した原因の解明と、監視体制の強化を

市は、「PFOS 及び PFOA に関する対応の手引き」に基づき、PFOS 及び PFOA の指針値(暫定)を超過した地点及びその周辺(確認された井戸の半径 250m 以内)の住民に検査結果の情報提供及び飲用に関する助言(注意喚起)を訪問により行いました。

今後は、公共用水域の常時監視調査が県計画で「3年に1度」となっているものを、PFOS 及び PFOA については独自に追加調査を実施します。

しかし、地下水保全の観点で、徹底した原因の解明や恒常的な地下水監視体制強化が求められます。

### 【2022 年度の公共用水域水質測定結果及び地下水質測定結果】

#### (1) 河川水

市内 5 地点での調査を行い、PFOS 及び PFOA の指針値(暫定)超過が確認された地点はなし

#### (2) 地下水

市内にある定点観測井戸 39 本での調査が実施され、PFOS 及び PFOA の指針値(暫定)超過が確認された地点 2 地点あり

- ① T34 白川(深)      ② T110 植木轟

\*PFOS 及び PFOA の指針値(暫定)は、PFOS 及び PFOA の合計で「50 ナノグラム/リットル」(ナノグラム: 1 グラムの 10 億の 1)

### (検出地点の PFOS 及び PFOA 濃度)

(ナノグラム/リットル)

地点名	指針値(暫定)	測定値	2023 年 3 月 追加調査
T34 白川(深)	50	55	77
T110 植木轟	50	110	110

今回(2022 年)調査は、2022 年 10 月に実施(白川深は 6 月・10 月の 2 回実施して平均値)し、指針値(暫定)超過が確認された地点 2 地点については 2023 年 3 月に追加調査を実施しました。

結果は上記の表のとおりで、いずれの調査においても、2 本の井戸では指針値(暫定)超過が確認されました。

(結果は、市役所 HP で公開中)